

令和8年度 第1回 東伊豆町学校教育環境整備委員会 議事録

1. 日時 令和8年6月18日（木）午後7時00分～午後8時20分
2. 場所 東伊豆町役場 1階 研修室
3. 出席者
 - 東伊豆町教育委員会：横山教育長、土屋事務局長、太田参事、坂下指導主事、飯田
 - 委員（敬称略）：鈴木直樹（稲取小 PTA）、笠井奈緒（熱川中 PTA）、荒武優希（学識経験者）、鈴木元一（学識経験者・副会長）、安田和可子（熱川中校長）、山本英希（稲取中校長）、内山國治（区長会副会長）、黒田種樹（区長会会長・会長）
 - 欠席委員：川口康介（熱川小 PTA）、高村明伯（稲取中 PTA）
4. 教育長挨拶
5. 委嘱状交付と委員紹介
 - 代表：鈴木直樹氏へ委嘱状交付及び各委員自己紹介
6. 会長・副会長の選任と挨拶
 - 互選により会長に黒田種樹氏、副会長に鈴木元一氏を選任
7. 議事の概要
 - (1) 東伊豆町における新しい教育の在り方について（太田参事より）
 - ① 学校教育環境整備委員会の説明
 - 東伊豆町学校教育環境整備委員会設置規則に基づき説明。
 - ② 諮問書の説明
 - 令和6年の答申で示された令和14年度の「幼小中高一貫教育校」整備を待たず、生徒数減少に伴う教育環境（専門教科の教員不足や部活動の維持）の維持が喫緊の課題となっているため、中学校の先行統合の可否と場所について検討を求めるものであると説明。
 - ③ 中学校先行統合論点整理とスケジュール案
 - 中学校先行統合論点整理：当委員会での議論の主要な論点として、1. 先行統合してよいか、2. 統合先は稲取中学校でよいか、3. 当委員会と統合準備会での議論する課題の整理、4. 保護者意見交換会に向けた準備について説明。
 - スケジュール案：令和8年度中に先行統合の可否と場所を決定し、令和11年度の開校を目指す。また、令和14年度の幼小中高の統合に向けて基本構想・基本計画の策定や進入路の設計・建設などを進めていくことを説明。
 - ④ これまでの経過と答申内容
 - これまでの学校統合の実績及び答申内容を説明。また、令和6年7月31日付で提出された答申の内容について確認を依頼した。

⑤ その他参考資料

- 今後の児童・生徒数の推計、校舎概要、中学校部活動一覧、通学時間と距離について説明。今後検討していく中で必要な情報があれば事務局に申し出るよう依頼した。

(2) 意見交換（委員からの主な意見と事務局からの回答）

● 委員

- **【意見】** 9月の保護者向け意見交換会に向けて、まずは「何を説明し、何を議論するのか」という題材（通学や部活動など）を早急に絞り込むべきである。
- **【事務局回答】** 指摘の通り、秋の説明会までに、保護者の関心が高い事項について町がどのような支援を行うのか、概要を説明できるよう準備を進める。

● 委員

- **【意見】** 先行統合で仮設校舎等の追加費用を抑え、浮くという予算は別のことに回せるのか。また、当事者となる子供や保護者の負担を考え、従来のような参加者の少ない説明会ではなく、より多くの保護者が参加しやすい工夫が必要である。
- **【事務局回答】** 予算が「浮く」というより、余分な支出（貯金の取り崩し）を抑えられるという考え方である。説明会については1回で終わらせず、学校ごとの参観日や夜間の開催など、場所や時間を工夫して参加しやすい環境を整え、丁寧に説明を重ねていく。

● 委員

- **【意見】** 年何回会議を開催予定か。また、単なる効率化ではなく、中学校統合が「新しい教育の始まり」であるというポジティブな魅力作りが必要。関係者が前向きに取り組めるような見せ方を検討してほしい。
- **【事務局回答】** 開催予定は年5回だが、必要に応じて回数を増やす。町の教育の基本方針に基づきつつ、新しい学校の基本構想を策定していく。新しい学校づくりにはPTAや先生方、地域の意見を反映させるための委員会等も別途組織していく予定である。

● 委員

- **【意見】** 他市町の事例でも保護者が最も懸念するのは「通学方法」である。統合が既定路線として話されるのであれば、通学支援についてより具体的な方針を示す必要がある。

- **【事務局回答】** 秋の説明会までに、通学や部活動等の支援策について町長や教育長とも協議し、具体的な支援の方向性を示せるように準備していく。
- **委員**
 - **【意見】** 統合と新校舎完成で2回環境が変わる子供たちの心のケアが非常に重要。また、専門教科の教員が揃うなどのメリットを、子供たちの視点で捉えたい。
 - **【事務局回答】** 環境が変化し続ける子供たちへの心理的なフォローや心のケアは非常に重要であると認識している。
- **委員**
 - **【意見】** 通学距離が伸びる地区への経済的・物理的支援は不可欠。また、現場の教職員が余裕を持って準備を進められるよう、早めの計画提示と負担軽減（リモート活用等）をお願いしたい。
 - **【事務局回答】** 統合に向けた県への報告も3年前には必要となるため、早期の決定を目指している。次回以降、現場の先生方が感じる具体的な課題を抽出する調査も実施していきたい。
- **委員**
 - **【意見】** 過渡期の子供たちの気持ちを想像すると心配もあるが、地域としても中学生がいきいきと活動できる環境を応援したい。
 - **【事務局回答】** 地域、PTA、先生方の声をしっかりと基本構想に反映させ、魅力ある学校づくりを進めていきたい。
- **委員**
 - **【意見】** 本日の議論で「通学」「部活動」「教育環境の魅力」という3つの大きな課題が明確になった。次回以降、これらを整理し議論を深めていく。
 - **【事務局回答】** 次回は、秋の保護者説明会で話すべき内容の選定と、具体的な方向性の導き出しを中心に進めていく。

8. まとめと今後の課題

- **まとめ：** 次回以降は、秋の保護者説明会で話すべき内容の選定と、具体的な方向性の導き出しを中心に進めていく。特に保護者の関心が高い事項について町がどのような支援を行うのか、概要を説明できるよう準備を進めていく。
- **今後の課題：**
 - **通学支援策の策定：** バス運行や経済的支援など、保護者の不安を払拭する

具体的な方針の提示。

- **子供の心のケア**： 短期間に二度の環境変化（先行統合と新校舎完成）を経験する子供たちへの継続的なフォロー体制の構築。
- **学校の魅力発信**： 単なる学校の減少ではなく、専門教員の確保や多面的な教育交流など、統合のメリットをポジティブに伝える工夫。
- **教職員の負担軽減**： 統合準備（カリキュラム、行事の調整等）を円滑に進めるための時間確保と計画の早期提示。

9. 次回日程 令和8年7月24日（金）午後7時00分～ 役場1階研修室